



一貫コース通信

11月3日・文化の日 考

コロナ禍の中で余り意識されて来なかったジャンルに文化がある様に思う。人の常と言えばそれまでだが、先ずは生活が第一と言う事だろうか。話題の中心はコロナ禍と絡め経済の話題が占めて来たように思われるのだ。それはそれとして、文化の日に因んで日頃考えて来た事について記そうと思いついた。

ところで、本校生徒には復習になるが、我が国の文化の日の制定には先の戦争への強い反省の念が込められている。人類の文化の進捗状況は地域やその土地の指導者に因って異なるが、かつての4大文明圏は、現代も尚、必ずしも先進性を示せていないのが文化の特徴とも考える。つまり栄枯盛衰の言葉があるが、この事をみごとに代弁してくれている様に思う。戻るが、先の大戦では東南アジア諸国に大変迷惑を掛けた。その背景に在ったのは他の民族文化の理解ではなく、逆に自国文化の優位性の誇張であった。従って、劣っていると思う対象への言動は、どうしてもぞんざいに成り兼ねないし、そこで起こった悲劇を増長させた。

この時期、最近では異国文化の輸入たるハロウィンと重なる。仮装ならぬ変身願望の表れか、それとも孤独の淋しさに耐えきれないのか、本心は私の理解の外にあるが、何時もと違った自分に成って、渋谷当たりで騒ぎ(うろつき)回る…? 様子が報道されるのが常となった。

この催しと言えば、随分前になるが日本人留学生が渡米先のハロウィンで、銃殺された事件とどうしても重なる。希望を抱き、海を渡った現地でこの事件は起きたのだが、原因は一つ、文化の理解が十分でなかったが故の悲劇であった。「家々を巡る時に、発せられた言葉“フリーズ”(freeze 凍ってしまえ≒止まれ)が理解出来なかったのである。」考えて見れば、こう言った誤解や、理解不足は星の教程在る様に思う。しかも、不測の事態の時、悲劇が回避されるのは、互いがヒトで在るからだと思うのだ。そこにはヒトとしての意志の疎通が。また、張り巡らされた情報化で、以前であれば全く知ることも無かった人々の距離を狭めた事も在ると思う。つまり、先の大戦以前であれば情報を発する機関も限られ、発せられ方も恣意的だったに違いない。しかし、今日では、例えこういう事が行われたとしても、それ以上に様々な情報に満ちて居る。尽き詰まる所、自分の志向、判断に帰する時代と社会になったのだと考える。始まりの...文化からは随分と離れてしまったが、今日日、こんな事を考えた。

所で、コロナ禍の為に、今年のノーベル賞の授賞式は随分と縮小と変更を余儀なくされた。ニュース性ではオリンピックやノーベル賞には及ばないが、音楽界でも同様の事がある。5年に1回開かれる、ショパン国際コンクールである。ピアニストの登竜門の1つであるが、歴代の受賞者の音楽性と演奏力が、このコンクールの国際的地位を築いた。F・ショパンは私の好きな音楽家の一人であるので、実は今年の覇者の演奏が楽しみだった。しかし、今年は開催年度に当たっていたのだが、コロナ禍で延期になってしまいしごく残念で仕方ない。

